

Title	編集後記
Sub Title	
Author	田中
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.1 (1966. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660101-0112

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

「学問のすゝめ」の研究をたすける関係資料のひとつに、第十二編のはじめの草稿とおぼしき無題の遺稿がある。新版の全集は文中の字句を採って「内は忍ぶ可し外は忍ぶ可らず」と題した。その文末の一節には当時の福澤の思想があざやかに要約せられている。

「一度び屈する者は復た伸ぶ可らず。内に居て弱き者は外に向て強きこと能はず。……今我人民の……内に在ては唯政府を尊崇して卑屈固陋を極めたるものなれば、此人民を駆て外人に当らしめ、日本独立の気風を保たしめんとするも亦難きに非ずや。故に今の人民へ上下同権の大義を教へ、理の在る所は政府と雖ども敢て屈す可らずとの趣意を知らしむるは、弱小をして強大に当らしむるの下た稽古なり、外国の強敵に抗せしむるの訓練なり。此訓練の際には些細の間違もあらん、双方の誤解もあらん、仮令ひこれあればとて内々の事にて、所謂兄弟鬩にせめぐものなれば、之を忍て可なり、何ぞ区々の疑念を抱くに足らん。唯其目的とする所は、理に随て強大に抗するの習慣を養ひ、以て外国交際に平均を得るの一事に在るのみ。」

しかしして昨年一月塾生の罷業にあたり、高村前塾長とその常任理事会がよく「之を忍て」学生の処分を行うこと無く、義塾の青年をして「強大に抗するの習慣を養ひ」成さしめた点は、福澤精神の現代的継承の課題として向後当局者の留意せらる可き所であらう。

(田中)

昭和四十一年一月一日発行

◎ 三田学会雑誌 第五十九巻

定価 一二〇円(送料共)

東京都港区芝三田二丁目二番地

慶應義塾経済学会

編集兼 代表者 遊 部 久 蔵

電話三田(43)二二二一
振替口座番号 東京四四〇五六

印刷者 東京都港区芝三田豊岡町八番地
図書印刷株式会社
木 山 康 夫

半年予約購読料(送料共) 七二〇円
一カ年 " " 一四四〇円

御希望の方は左記へ購読料を添え御中込み下さい。

発売所 東京都高輪局区内三田綱町一番地
慶 應 通 信

振替口座番号 東京一五五四九七